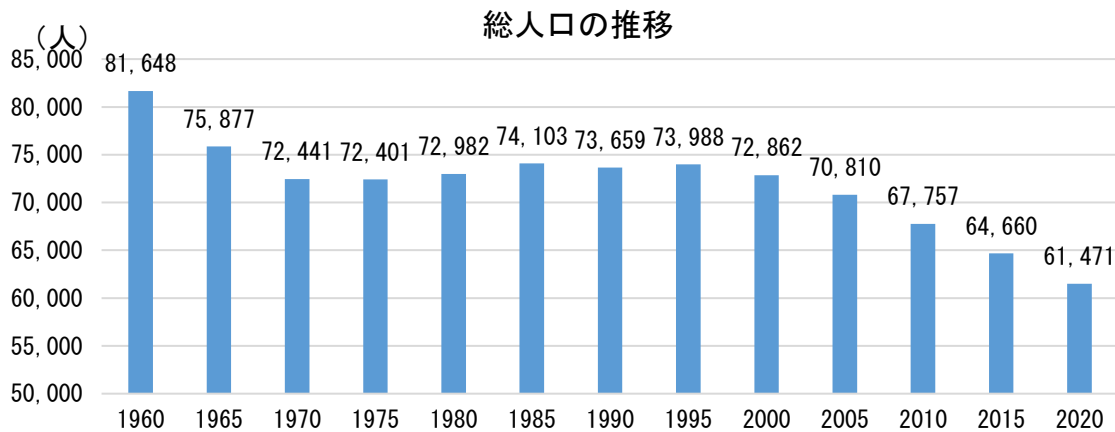


丹波市の人口動態の分析について

1 総人口

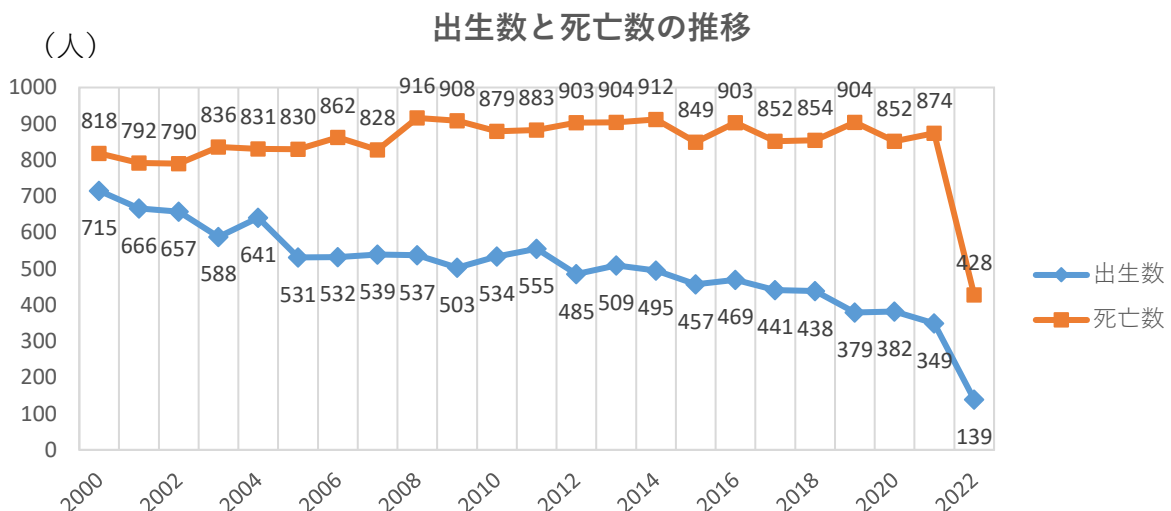
- ・高度経済成長期（1960年代～1970年代）には都市部への人口流出があり、総人口が減少した。
- ・1970年～1995年はほぼ横ばいで推移し、1995年をピークに減少を続けている。
- ・2020年の国勢調査の結果では61,471人と、6万人を維持したものの、2005年以降、5年毎の調査で毎回3,000人以上の人口が減少している。
- ・2020年3月に策定している丹波市人口ビジョンでの将来目標人口は61,573人であり、2020年の国勢調査速報値の結果は目標人口に届かなかった。
- ・今後も減少し続けることが予測され、2060年には34,660人となり、2020年と比較して、43.7%減少すると推計される。



出典：国勢調査

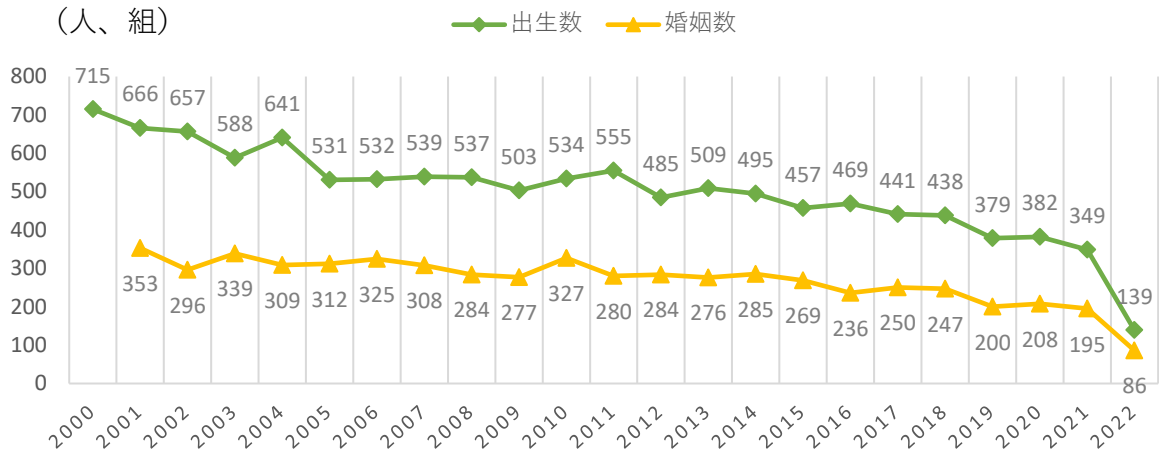
2 出生数・死亡数・婚姻数の推移

- ・出生数は2011年までは500人台を維持していたが、以降は2013年に500人台に回復したものの、減少を続けている。
- ・2019年、2020年は300人台まで減少している。2022年は1月から5月までの出生数が139人であり、昨年の同時期（147人）と比べると減少していることから、2022年はさらに減少することが予想される。
- ・出生数の減少は、婚姻件数の減少とおおよそ比例しており、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた2019年には大きく減少している。



出典：2000-2021 丹波市住民基本台帳、2022 丹波市住民基本台帳（1月～5月）

婚姻件数と出生数の推移

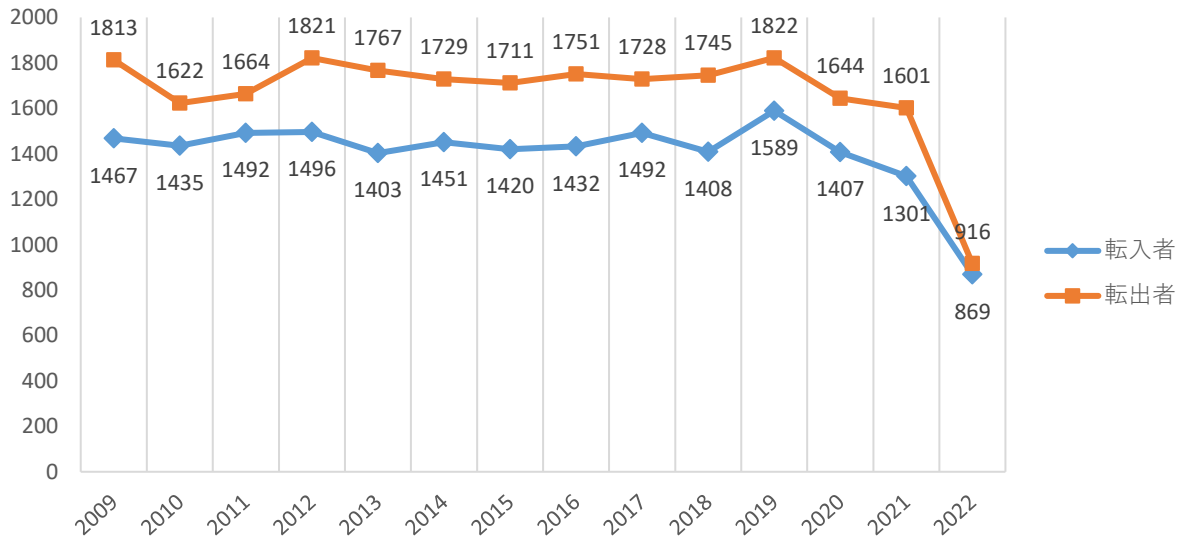


出典：2000-2021 県保健統計年報、2022 丹波市住民基本台帳（1月～5月）、2022 人口動態調査（1月～5月）

3 転入者数・転出者数の推移

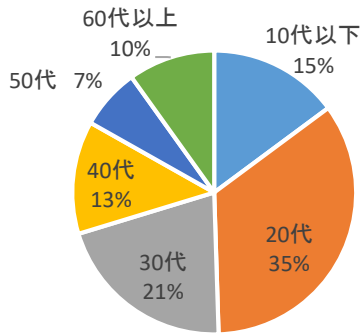
- ・転入者数・転出者数ともに近年は横ばい傾向にあり、転出超過の状態が続いているものの、2019年から減少幅は小さくなっている。
- ・転入者、転出者をそれぞれ世代別にみると、どちらも20代、30代が最も多く、全体の6割を占めている。

転入者数と転出者数の推移

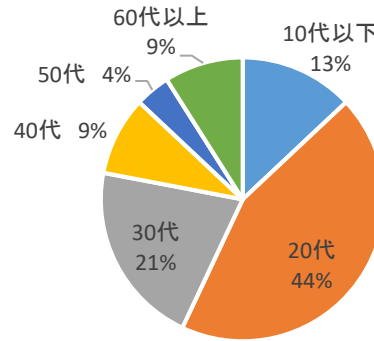


出典：2009-2021 兵庫県の人口の動き、2022 丹波市住民基本台帳（1月～5月）

2021年度 転入者の世代割合



2021年度 転出者世代割合

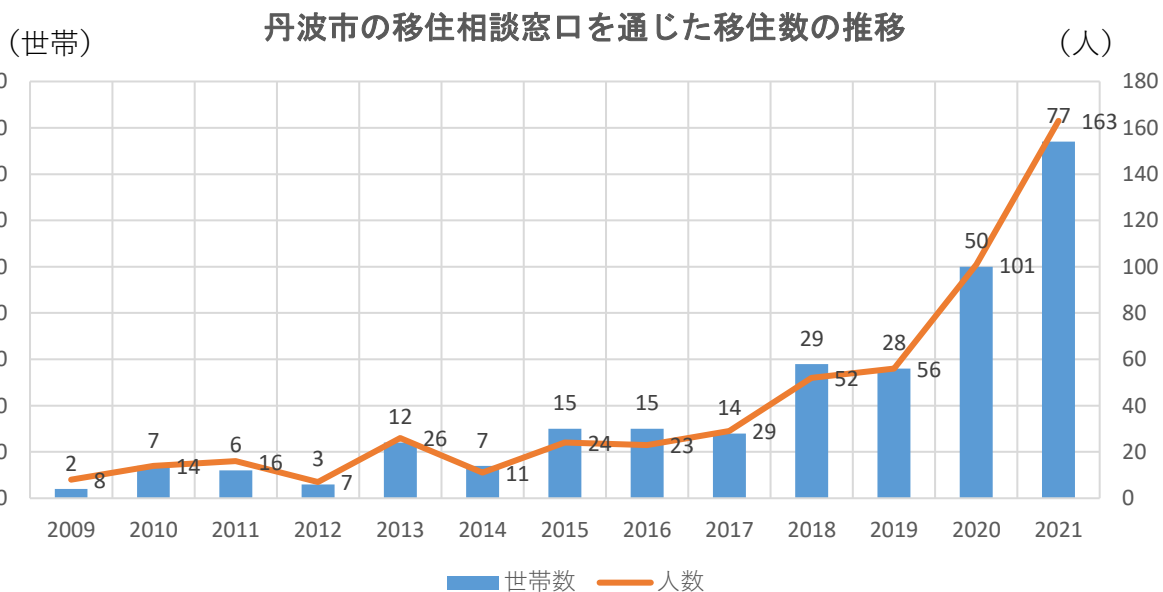


■ 10代以下 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

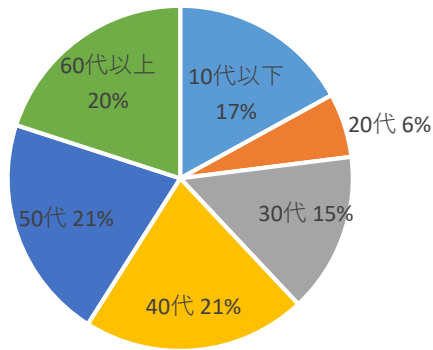
出典：丹波市住民基本台帳

4 移住の状況

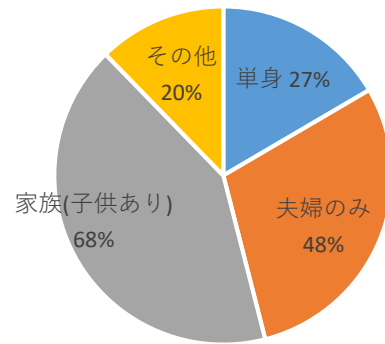
- ・移住・定住促進に取り組んで以降、移住相談件数・移住実績ともに順調に増加している。
- ・コロナ禍で地方移住への関心が高まっており、2020年度は前年比80%増、2021年度は61%増と増加している。
- ・移住相談窓口を通じた移住者の家族構成は、昨年度に比べ子どもがいる家族が大きく増加し全体の約7割を占めているが、移住者を世代別にみると40～50代の割合が最も高くなっている。
- ・相談者の年齢層は、昨年度と変わらず40代と50代で高くなっているものの、総合戦略の政策ターゲットとなる20代30代の割合に若干の増加がみられる。



2021年度 移住者の世代割合



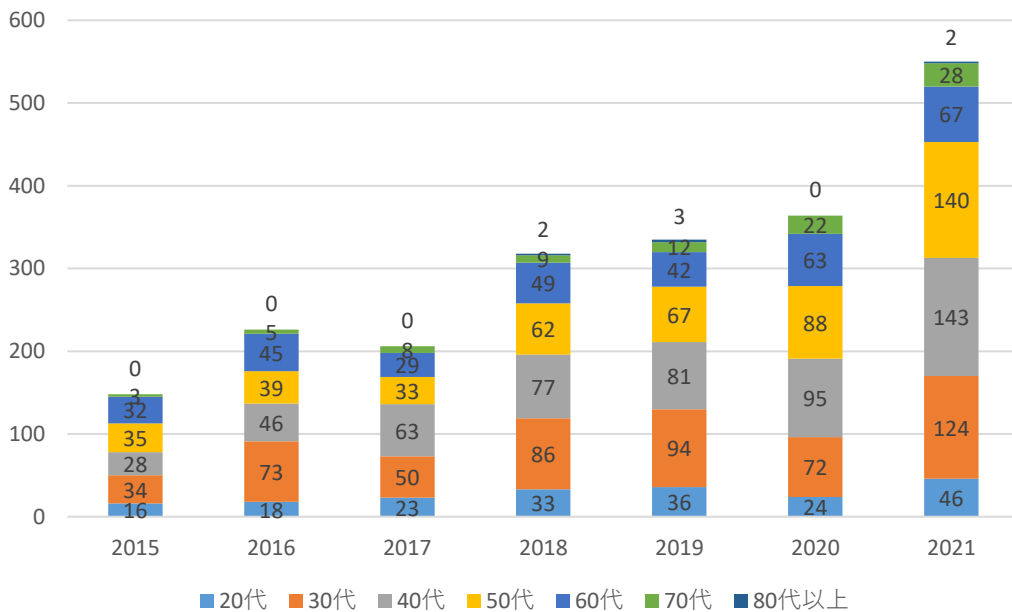
2021年度 移住者の家族構成



■ 10代以下 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

■ 単身 ■ 夫婦のみ ■ 家族(子どもあり) ■ その他

移住相談 年代別推移



2017 年齢不明 40人

2018 年齢不明 63人

2019 年齢不明 28人

2020 年齢不明 5人 10代が1名

2021 年齢不明 8人

出典：たんば“移充” テラス令和3年度活動報告書